様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 １７ 日現在

機関番号：３２７１３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｋ０３１５７

研究課題名（和文）性犯罪のリスクのある障がい者の社会インテグレーション

研究課題名（英文）Social integration of persons with disabilities at risk of sexual offenses

研究代表者
安藤　久美子（Ando, kumiko）

聖マリアンナ医科大学・医学部・准教授

研究者番号：４０５１０３８４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：性犯罪のリスクの高い知的障害や発達障害をもつ者でも使用可能な治療プログラムとして、性犯罪治療プログラムSPIRiTS：Sexual Offender Preventive Intervention and Re-integrative Treatment Schema を開発。特に地域で広く活用できるよう、医師や心理士等の資格のない支援者でも使用可能なプログラムとなることを目標とし、プログラムを進行するためのファシリテーターの育成やワークブックの進行用のマニュアル等の改訂・精緻化にも取り組んだ。実際に全国のいくつかの地域において非専門家である支援者を対象としたプログラム研修会を実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
性犯罪のリスクの高い知的障害や発達障害をもつ者でも使用可能な治療プログラムとして、性犯罪治療プログラムSPIRiTS：Sexual Offender Preventive Intervention and Reintegrative Treatment Schema を開発し、その実行可能性を実際に全国のいくつかの地域において非専門家である支援者を対象としたプログラム研修会を実施した。　性犯罪の再犯防止の取り組みにあたって一助となることが期待される。

研究成果の概要（英文）：We developed and revised a treatment program for sexual offenders, which is "SPIRiTS : Sexual Offender Preventive Intervention and Re-integrative Treatment Schema".
SPIRiTS is a program that can be used by individuals with intellectual and developmental disabilities who are at high risk for sexual offending. In particular, we aimed to make the program usable by supporters who are not qualified as doctors or psychologists so that it can be widely used in the community. We also worked on training facilitators to facilitate the program and revising and refining the manual for facilitating the workbook, and hold program training sessions for non-professional supporters in several regions throughout Japan.
Our future plans are to develop a program for online courses and to build a network of supporters.

研究分野：司法精神医学　矯正医学

キーワード：性犯罪　発達障害　知的障害　治療プログラム　認知行動療法　性非行　再犯防止　社会復帰

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

日本の犯罪統計をみると、2003 年以降は刑法犯罪の検挙件数は減少傾向にある一方で、性犯罪は増加傾向にある。また、性犯罪は再犯率が高く、その治療的取り組みが望まれている。さらに知的障害などのある人を対象とした治療プログラムは稀で、治療や社会復帰に向けた支援は不十分である。そこで、障害のある性犯罪者にも利用でき、専門家でなくても実施可能な治療プログラムの開発が必要であった。

２．研究の目的

上記の問題点を踏まえて、われわれは、日本の風土にあった性犯罪治療プログラム本治療プログラムを SPIRiTS：Sexual Offender Preventive Intervention and Re-integrative Treatment Services Collaborative の開発を目指した。本プログラムの開発にあたって達成すべき目標として３つの目標を設定した。ひとつめは、地域社会で実践可能なことである。性犯罪防止の取り組みに関しては、わが国においても刑事施設や保護観察所などにおいて、性犯罪に特化した治療プログラムが実施されているが)、再犯防止に最も重要である社会復帰後の治療を継続する場はとざされている。そこで社会復帰後の地域で実践できるプログラムを開発する必要があった。二つ目は、地域保健の現場においては、知的障害や発達障害を併存しているケースのなかには性に関する問題が発生した場合でもこれまでは十分な介入が行われてこなかった。そこで知的障害や発達障害を併存するケースに対しても利用可能な治療プログラムの開発が必要であった。そして３つ目は、専門家でなくても実施可能なプログラムであることである。性犯罪治療の専門家は司法精神医学領域でも稀有な存在であり、そうした専門家でなければ治療的介入ができないとすれば、犯罪防止の観点からは大きな制限となってくる。そこで、対象者の生活や障害特性をよく知る身近な支援者などの、非専門家が実行可能なプログラムを開発する必要がある。そのためにプログラム本体の開発だけでなく、緻密で丁寧な指導マニュアルの作成にも力を注ぐ必要があると考えた。

こうした３つの目標を達成し、地域密着型のプログラムを完成させることを目的とした。

３．研究の方法

本研究では、より適切なプログラム開発とともに実行可能なプログラムとするため、2017年に、九州地域に在住する知的障がいのある男性 6 名（平均年齢 29.0±8.46、IQ：36～65）を対象に行ったパイロットスタディの結果をもとに、プログラム内容を再分析した。

具体的には当時使用した１５回のプログラムについて、①性知識、②性犯罪嗜好、③認知の歪み、④被害者への共感の４つの獲得目標に分類し、各目標の到達度および効果の持続性について目標ごとの心理評価スケールを用いで評価を行った。また、評価スケールだけでは測れない達成した項目については参加者および支援者からの聞き取りを行い、評価した。なお、本研究への参加者および参加者の支援スタッフに対してはインフォームド・コンセントを行い、プライバシーの保護や匿名性の保持に十分配慮した。

４．研究の成果

（１）SPIRiTS の完成

本研究で開発した SPIRiTS は、認知行動療法やリラプス・プリベンションを軸としている。また、対人接触やコミュニケーションの慣習が異なる海外のプログラムでは、日本の風土やニーズにはなじまないことを実感し、日本人に合わせた状況や場面を設定したロールプレイを多く取り入れるため、当初１５回で作成していたセッション数を増やし、具体的なリスク場面を想定できるように開発した。

その結果、本治療プログラムは 7 本柱の理論をベースとし 1 回 2 時間、全 20 回のプログラムとして完成した。プログラムのねらいを図１に示した。主な改編を以下に示す。

①　知的障害や発達障害を抱える者には、性に関する知識不足や誤学習が認められる。とくに日本では性に関する話題は極端に避けられる傾向があり、性に関する正しい知識が伝わっていないことを踏まえて、プログラムの早い段階で一般的な性教育を取り入れた。

②　性犯罪の背景としては、個人の偏った性的嗜好や誤った認知が関係して問題行動を発生させていることが多いことから、認知の歪みに関するアセスメントを取り入れた。また、

本人だけでなく、支援者も協力して評価する形式とすることで、新たな認知の歪みに気づくためのきっかけとなるように設定した。また、本プログラムでは、障害のある対象者でも取り組みやすいプログラムとなるようにイラストやシェーマによる視覚的支援を十分に取り入れるように工夫したところ、参加者の取り組む姿勢が向上し、理解度も高まった。

③　さらには、性犯罪に結び付きやすい要因（Need）を個々に整理し、そうしたニーズにあった対処方法を個々に選択できるよう、多種の対処トレーニングもプログラム内に取り入れた。これによりプログラムが終了した後も、自分の性衝動をオーダーメイドなコントロール方法で対処するとともに、よりよい社会復帰を促進するためのグッドライブズモデルの要素も加えた。

（２）SPIRiTS による効果とその持続性

当時の SPIRiTS プログラム（１５回版）を①性知識、②性犯罪嗜好、③認知の歪み、④被害者への共感の４つの獲得目標に分類し、評価した。結果を図２に示した。いずれの項目も概ね適切な方向に変化していることがわかった。

ただし、効果の持続性の面では認知の歪みや被害者の共感性は、再び数値が上昇傾向を示す参加者も認められたため、治療プログラムの改編にあたっては認知の歪みや共感性をテーマとしたロールプレイを追加して取り入れることとした。

（３）今後の展望

性犯罪加害者への治療と支援を考えるためには、個人のリスクをアセスメントし、本人の生活を具体的に支援すること、すなわち“ 人生の生きやすさ ”を支援することが重要である。また、対象者の性的衝動が高まった際の行動療法等を用いた具体的なスキルの獲得も有用である。本プログラムではそれらの要素を網羅的に取り入れたものとなっている。

また、性犯罪を防止するために社会に投げられた課題はたくさんある。こうしたプログラムが広く普及し、警察関係者、医療者、教育者、福祉関係者などが利用しやすいものとなることが望まれる。なお、SPIRiTS プログラムは、書籍として 2022 年度内に上梓される予定

である。

（4）本研究内容の変更と限界

本研究計画では、開発したプログラムを新たな被験者を募って実際の現場で実施し、プログラム効果を待機者と比較して測定することを目的としていた。しかし COVID-19 の感染拡大のために、当初計画していたプログラム研修および対象者グループへのプログラム提供が困難となった。そのため、2017 年に実施したパイロットスタディの結果をもとに、プログラム内容を分析と個別の心理評価を実施し、その効果の持続性を確認する内容に変更した。今後はアフターコロナの環境を鑑みて、オンライン受講用の DVD を作成中である。

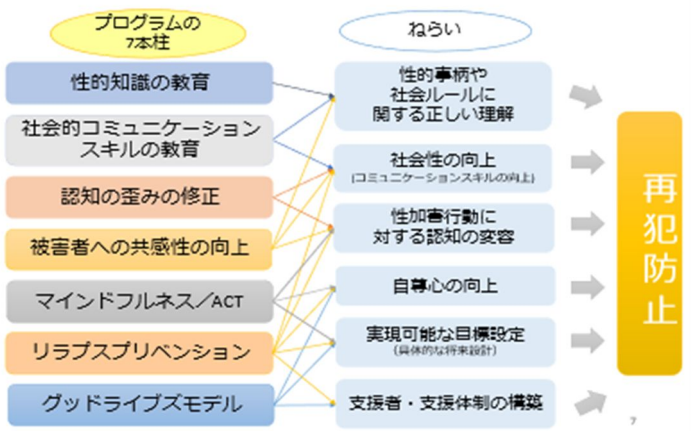

図１. SPIRiTS の枠組み

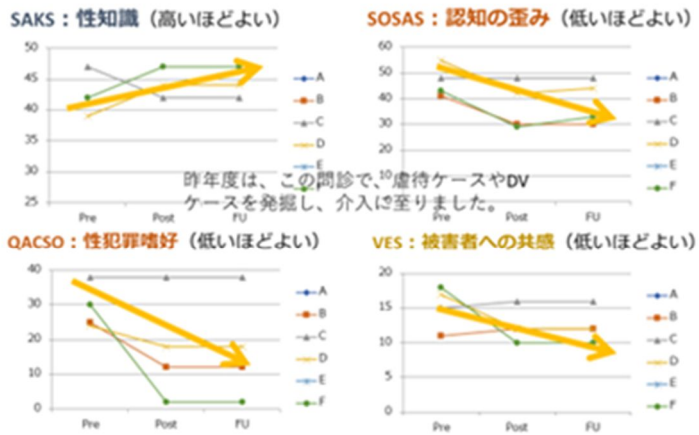

図２.SPIRiTSによる効果とその持続性

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計14件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　9件）

１．著者名 Ando Kumiko	４．巻 4
２．論文標題 A treatment strategy for sex offenders in Japan	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Integrative Clinical Medicine	６．最初と最後の頁 online
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15761/ICM.1000178	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 安藤久美子	４．巻 276
２．論文標題 性犯罪者は治療できるのか―SPIRiTSを用いた挑戦	５．発行年 2021年
３．雑誌名 週刊医学のあゆみ	６．最初と最後の頁 879-881
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 安藤久美子	４．巻 35
２．論文標題 司法領域における児童精神科医の役割	５．発行年 2020年
３．雑誌名 精神科治療学	６．最初と最後の頁 103-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 安藤久美子	４．巻 28
２．論文標題 パーソナリティ障害と秩序破壊的または非社会的行動症群―精神病理学的視点の再考	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日本社会精神医学会雑誌	６．最初と最後の頁 147-158
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 安藤久美子	４．巻 21
２．論文標題 少年司法における医療へのダイバージョン	５．発行年 2019年
３．雑誌名 家庭の法と裁判	６．最初と最後の頁 11-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 安藤久美子	４．巻 34
２．論文標題 ミュンヒハウゼン症候群／代理ミュンヒハウゼン症候群	５．発行年 2019年
３．雑誌名 精神科治療学	６．最初と最後の頁 331-333
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 安藤久美子	４．巻 84(6)
２．論文標題 我が国における性犯罪者治療の今－性犯罪者の治療介入アプローチ：SPIRiTSの開発と実践－	５．発行年 2018年
３．雑誌名 犯罪学雑誌	６．最初と最後の頁 161-170
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 安藤久美子	４．巻 17(1)
２．論文標題 性犯罪の実態と加害者治療の今－加害者介入アプローチ-ＳＰＩＲｉＴＳの紹介－	５．発行年 2018年
３．雑誌名 性の健康	６．最初と最後の頁 30-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 安藤久美子	4．巻 199
2．論文標題 発達障害・知的障害の治療－性犯罪プログラムの実践を踏まえて	5．発行年 2018年
3．雑誌名 こころの科学	6．最初と最後の頁 83-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 安藤久美子	4．巻 17(2)
2．論文標題 思春期における性に関する問題－性的被害の実態を知る-	5．発行年 2019年
3．雑誌名 性の健康	6．最初と最後の頁 26-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 安藤久美子	4．巻 44(3)
2．論文標題 暴力のリスク・アセスメント	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日精診	6．最初と最後の頁 15-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 安藤久美子	4．巻 33(8)
2．論文標題 司法的観点を活かした発達障害臨床	5．発行年 2018年
3．雑誌名 精神科治療学	6．最初と最後の頁 943-947
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 中澤佳奈子,安藤久美子	４．巻 33(8)
２．論文標題 性犯罪加害者・被害者のアセスメントと治療アプローチ	５．発行年 2018年
３．雑誌名 精神科治療学	６．最初と最後の頁 965-969
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 安藤久美子	４．巻 17(3)
２．論文標題 思春期における性に関する問題-性的被害の実態とその治療	５．発行年 2018年
３．雑誌名 性の健康	６．最初と最後の頁 24-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計18件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 安藤久美子,加茂登志子，榎戸美佐子
２．発表標題 委員会シンポジウム(男女共同参画推進委員会)　学術分野における女性の活躍および男女共同参画推進：２０１７年および２０１９年調査の比較から
３．学会等名 第１１６回日本精神神経学会学術総会
４．発表年 2020年

１．発表者名 安藤久美子
２．発表標題 発達障害と精神鑑定
３．学会等名 第６１回日本児童青年精神医学総会
４．発表年 2020年

１．発表者名 安藤久美子
２．発表標題 シンポジウムⅠ　司法精神医学における自閉スペクトラム症の位置づけ
３．学会等名 第１６回日本司法精神医学会大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 神山昌也,安藤久美子
２．発表標題 大学院における、高齢者の幻覚妄想状態についての精神医学的病態分析
３．学会等名 第１６回日本司法精神医学会大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 戸邉友揮，安藤久美子,神山昌也
２．発表標題 一般人口を対象とした我が国の犯罪や司法に関する実態調査―その１
３．学会等名 第１６回日本司法精神医学会大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 安藤久美子,戸邉友揮，神山昌也
２．発表標題 一般人口を対象とした我が国の犯罪や司法に関する実態調査―その２
３．学会等名 第１６回日本司法精神医学会大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 安藤久美子
２．発表標題 シンポジウム「平成の犯罪と令和への犯罪精神医学」
３．学会等名 日本犯罪学会第57回総会
４．発表年 2020年

１．発表者名 安藤久美子，中澤佳奈子、照本麦子、大塚俊弘
２．発表標題 性犯罪者治療の現在―発達障害および知的障害者向けの治療プログラム(SPIRiTS)の紹介
３．学会等名 第114回日本精神神経学会学術総会
４．発表年 2019年

１．発表者名 安藤久美子、伊豆丸剛、小口芳世
２．発表標題 性犯罪リスクのある知的障がい者向けの治療プログラム
３．学会等名 日本社会精神医学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 安藤久美子
２．発表標題 ADHDと精神鑑定
３．学会等名 第１５回日本司法精神医学会大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 安藤久美子
２．発表標題 シンポジウム６８　医療と司法から見たダイバーシティ「個性とダイバーシティ－ジェンダーと発達障害の視点から」
３．学会等名 第１１５回日本精神神経学会学術総会
４．発表年 2019年

１．発表者名 深野紗代，塚原さち子，熊田知佳，安藤久美子，小野和哉
２．発表標題 ペアレント・トレーニング終了後のスキルの使用を維持・継続する要因の検討―ペアレント・トレーニング終了後の実施アンケートからー
３．学会等名 第６０回日本児童青年精神医学会総会
４．発表年 2019年

１．発表者名 塚原さち子，深野紗代，熊田知佳，安藤久美子，小野和哉
２．発表標題 大学病院児童思春期外来におけるペアレント・トレーニングの取り組み－母親視点からの効果謙称に基づくトレーニングの意義と課題－
３．学会等名 第６０回日本児童青年精神医学会総会
４．発表年 2019年

１．発表者名 安藤久美子，中澤佳奈子、照本麦子、大塚俊弘
２．発表標題 性犯罪者治療の現在―発達障害および知的障害者向けの治療プログラム(SPIRiTS)の紹介
３．学会等名 第114回日本精神神経学会学術総会
４．発表年 2018年

１．発表者名 安藤久美子、伊豆丸剛、小口芳世
２．発表標題 性犯罪リスクのある知的障がい者向けの治療プログラム
３．学会等名 日本社会精神医学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 尾崎翔一　、安藤久美子、中澤佳奈子、照本麦子、岡田幸之
２．発表標題 医療観察法医療における家族支援の現状―通院処遇対象者の家族に焦点を当てて―
３．学会等名 第37回日本社会精神医学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 安藤久美子，中澤佳奈子，岡田幸之
２．発表標題 医療観察法通院対象者の12年間の軌跡と社会内統合の実態
３．学会等名 第14回日本司法精神医学会大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 安藤久美子，中澤佳奈子，曽雌崇弘，野田隆政，岡田幸之
２．発表標題 地域司法精神医療―その１０年を振り返ってー
３．学会等名 第114回日本精神神経学会学術総会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計2件

1．著者名 安藤久美子（五十嵐禎人、岡田幸之編）	4．発行年 2019年
2．出版社 中山書店	5．総ページ数 279
3．書名 刑事精神鑑定ハンドブック	

1．著者名 安藤久美子	4．発行年 2019年
2．出版社 現代人文社	5．総ページ数 293
3．書名 ケース研究 責任能力が問題となった裁判員裁判	

〔産業財産権〕

〔その他〕

本研究で開発したSPIRiTS：Sexual Offender Preventive Intervention and Re-integrative Treatment Services Collaborativeは、書籍として2022年度内に上梓される予定である。

また、本研究の計画段階では、開発したプログラムを新たな被験者を募って実際の現場で実施し、プログラム効果を待機者と比較して測定することを目的としていた。しかしCOVID-19の感染拡大のために、当初計画していたプログラム研修および対象者グループへのプログラム提供の実施が困難となった。そのため、2017年に実施したパイロットスタディの結果をもとに、プログラム内容を分析するとともに、個別に心理評価を実施し、その効果の持続性を確認する内容に変更した。今後は、アフターコロナの環境を鑑みて、オンラインによるプログラム提供が可能となるよう、現在はDVD作成に着手している。

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	堀江　まゆみ (Horie mayumi) (50259058)	白梅学園大学・子ども学部・教授（移行） (32808)	削除：2019年2月13日

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	小口　芳世 (0guchi yohiyo) (60445343)	聖マリアンナ医科大学・医学部・講師 (32713)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関